

スライドカンファレンス

<症 例 2>

症 例：90歳代 女性。

既往歴：特記すべきことなし。

現病歴：総胆管結石にて当院受診。CTにて右肺門に接する4 cm大の腫瘤を認めた。

検 体：気管支擦過

回答者診断：腺様嚢胞癌

出題者回答：腺様嚢胞癌

解 説：細胞学的には、線毛円柱上皮と裸核状の小型細胞を背景に、やや小型でN/C比が高く、クロマチンが増量した異型細胞が重積性のある集塊で出現していた。管状の集塊が散見され、辺縁に基底膜様構造のように見える部分を認めた(写真1)。一部の集塊辺縁には核濃染した紡錘形の細胞が観察され、二相性を示しているように思われた(写真2)。少数ながら、小型で核濃染した細胞が取り囲んだ球状集塊や篩状構造を呈した集塊もみられた(写真3)。これらの所見より、腺様嚢胞癌が疑われた。

組織学的には、小型の異型細胞が篩状構造を呈し、内腔には好塩基性の粘液様物質がみられ、充実性胞巣も散見された(写真4)。特殊染色では、篩状構造の腺腔様構造内の粘液はアルシアン青染色陽性、ヒアルロ

ニダーゼ消化試験陰性となり、間質性粘液と考えられた。それとは別に、PAS陽性となる上皮性粘液を入れた腺腔もみられた。免疫染色では、SMAとp63で陽性細胞と陰性細胞がみられたが、SMAとp63が陰性であった細胞はCK7、CD117では陽性となっており、腫瘍は筋上皮細胞と導管上皮細胞の2種類の細胞で構成されていると考えられた。(表1) Ki-67陽性細胞はごく少数であった。以上より腺様嚢胞癌と診断された。

腺様嚢胞癌は、肺癌のなかでは唾液腺型腫瘍に分類



写真2 辺縁に核濃染した細胞がみられた (Pap. 染色, ×60).

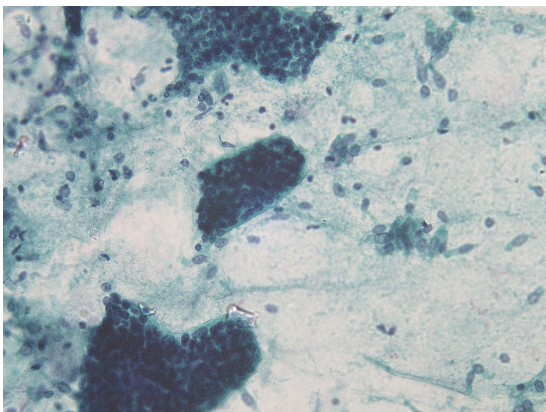


写真1 管状集塊の辺縁に基底膜様構造と思われる部分を認める (Pap. 染色, ×40).

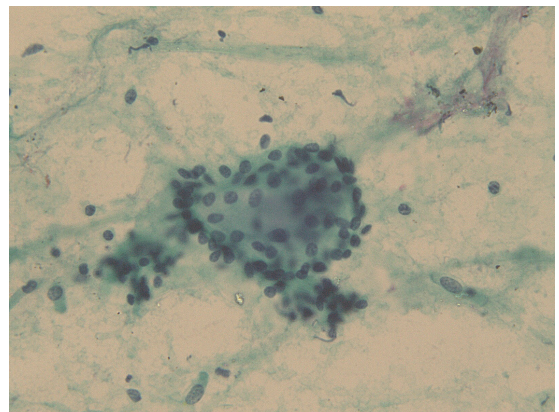


写真3 小型の細胞が取り囲んだ球状集塊を認めた (Pap. 染色, ×60).

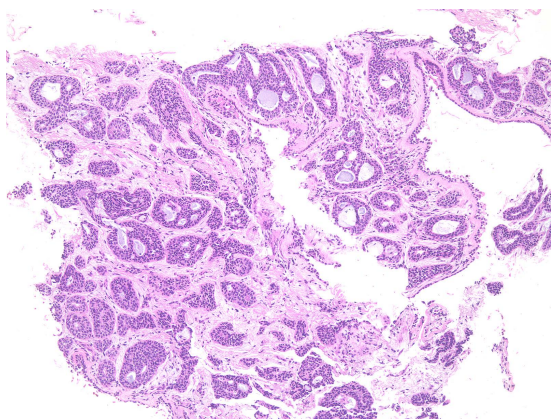


写真4 異型細胞が篩状構造を呈している (HE 染色, ×10).

される比較的古まな腫瘍であり、大部分は気管支から発生する。発育は比較的緩徐であるが、気管や気管支軟骨を超えて周囲組織に浸潤し、長期経過例では遠隔転移する例もみられる。細胞診では、小型の腫瘍細胞が粘液球を取り囲んで配列する、立体的なボール状集塊が特徴的である。篩状構造を示すことが多く、粘液は Giemsa 染色でメタクロマジーを示す。基底膜様構造や二相性が確認できる場合もある^{1,2)}。

主な鑑別診断としては、基底細胞腺腫、基底細胞腺癌、上皮筋上皮癌があげられる。基底細胞腺腫、基底細胞腺癌との鑑別点は、腺様嚢胞癌より篩状構造や粘液球が目立たないことが多く、より細胞が均一で核に丸みがあり、集塊辺縁に柵状配列がみられる場合がある^{3,4)}。基底細胞腺癌は細胞異型が乏しく、基底細胞腺腫との鑑別は細胞診では困難である⁴⁾。上皮筋上皮癌との鑑別点は筋上皮細胞の形態が異なる点であり、腺

表1 腫瘍細胞の免疫組織化学染色結果

	Myoepithelial cells	Ductal cells
CK7	+	+
SMA	+	-
p63	+	-
CD117	+/-	+
TTF-1	-	-
Napsin-A	-	-

様嚢胞癌にみられる筋上皮細胞は小型で角張っており、核濃染しているが、上皮筋上皮癌にみられる筋上皮細胞は、やや大型で細胞質淡明である。

腺様嚢胞癌は基底細胞腺癌や上皮筋上皮癌と比べて悪性度が高く、鑑別は臨床的に重要である。今回の症例のように腺様嚢胞癌に特徴的な篩状構造や粘液球などの所見が乏しい場合は、筋上皮細胞との二相性や核所見をよく観察することが重要である。

著者は、本論文において開示すべき利益相反状態はありません。

文 献

- 1) 公益社団法人 日本臨床細胞学会. 細胞診ガイドライン4 呼吸器・胸腺・体腔液・リンパ節. 東京: 金原出版; 2015. 51-52.
- 2) 太田秀一, 山本浩嗣, 福成信博, 亀山香織, 北村隆司. 頭頸部・口腔細胞診アトラス 第1版 第1刷. 東京: 医療科学社; 2009. 130.
- 3) 日本唾液腺学会. 唾液腺腫瘍アトラス. 東京: 金原出版; 2005. 62.
- 4) 公益社団法人 日本臨床細胞学会. 細胞診ガイドライン5 消化器. 東京: 金原出版; 2015. 99-108.